学校と博物館
そのよりよい利用形態にむけて

20130905
文化庁第3回ﾐｭｰｼﾞｱﾑｴﾃﾞｭｹｰﾀｰ研修
美濃加茂市民ミュージアム　可児光生

1

1．美濃加茂市民ミュージアムの概要

美濃加茂市
名古屋市から北方へ約30kmの小都市
人口　55,018人　2013.4現在
主要街道中山道と木曽川が交差する、昔も今も交通の要衝

◇開館

2000年10月　〔1983年から17年間準備、総合的な学習時間導入試行の年〕

◇形態・施設・組織

・施設　・・本館（展示、収蔵）、実習棟、民具展示館＋生活体験館（約50年前の養蚕民家を復元）、宿泊アトリエ棟
（本館延床面積約5,900㎡、敷地全体面積　約9ﾍｸﾀｰﾙ）
・自治体（美濃加茂市）直営、中小規模な地域総合博物館
・スタッフ15名（非常勤含む）
（総務、学芸、学習の3係、うち学芸員6名/文化財保護業務兼務）
・年間入館者・・・88,901名（2012年度）

2

みのかも文化の森

◇分野

総合（自然史、考古、歴史民俗、美術、文化史）分野をあつかう。

◇館の理念・方針 （17年間の紆余曲折から作られた。開館10年たちどれだけ近づけたか？）

「自然との共存」

・・豊かな里山に立地。自然から学ぶことの大事さを知る。

「博学連携」 →本日のテーマ

・・博物館のモノを活かした、感動と深まりのある学びができる場となり、子どもが将来にわたって幅広く知的好奇心を持ち続けられるようになる。

「市民参画」

・・市民の自由な発想と自発的な気持ちが博物館を支え、博物館の大きな力となる。

「交流と地域」

・・「博物館」という枠や概念にとらわれることなく、地域にとって必要とされる文化的交流の拠点となる。

5

2. 学校の博物館利用状況 （2012年度）

◇利用者数 9,724名

（小 8,950名[92%]、中 243名、幼保他 531名）

（市内 7,072名[73%] 市外 2,652名[27%]）

＊利用率 82%（活動日数÷来館可能日数）

＊開館以来の延人数 106,755名（12年半）

＊小学校6年間の来館回数 10.8回（2012年度卒業生）

◇実施プログラム数 224 （学級数 345クラス）

参考

市内児童生徒数5,071人 学校数12校

6

◇プログラムのおもな内容（2012年度）

社会(68回）

「米作りの村から古墳のくにへ」「室町文化」（小6）「古い道具と昔のくらし」（小4）

生活（40回）

「はるのずかん」「はっぱの色がかわったよ」（小1）「かまどでごはん」

理科（20回）

「大地のつくりと変化」（小6）「流れる水のはたらき」（小5）・・

国語（11回）

「たぬきの糸車」（小1）「スーホーの白い馬」（小4）

図工・総合(37回）

「葉っぱのお皿づくり」（幼・保）「曲げてねじって」（小5）「郷土を開く」（小4・地域学習）
「達人に学ぶ」「学芸員の仕事体験」（中学・総合）

・多教科で実施されるのは、小さいながらも各分野を扱う総合博物館だから。
・学校側がより効果が上がると考える教科を選び自由に教材化しようとしている表れ。

7

3. 学校利用の博物館の体制

◇内容

〇年間カリキュラム基づいた授業の教科としての活動
〇「遠足」「社会見学」ではない。
〇学校と博物館との事前打ち合わせ（mail + face to face)
・両者のねらい確認
・指導案作成
・事前事後学習

◇児童生徒への直接的支援

・バスによる送迎　（学校～博物館　＋現地学習）

8

9

学校と博物館の事前打ち合わせ

◇スタッフ

役割の分担

〔T1:教員、T2:学芸員、T3:学習係、T4:ボランティア〕

・学習係（4名） ・・・職員1（非教員）、非常勤3〔うち1人教員OB〕

・無償ボランティア （161名登録）

〔6分野・・・学習支援、展示、生活体験、アート、伝承料理、イベント〕

〔2012年度 支援したボランティア数 のべ317名〕

＊それぞれ多様な立場、視点で子どもたちに関わる

◇学校との連絡組織

「文化の森活用委員会」の設置

・各校1名、年3回開催、学校との連絡調整

・学習活動の工夫、新規プログラムの開発

・活用にともなう教員研修、活動の反省、評価

10

11

多分野のボランティアが関わる　「古い道具と昔のくらし」（小4社会科）

◇報告・公開・フィードバック

○博物館HP上での公開

実施したすべてのプログラムを授業後、公開

○「森の学校たより」の発行

学校への情報提供（A4両面、随時）

○『活用の手引き・実践集』の発行

・毎年発行、教員全員配布、130ページ程度
・年間実践記録＋新開発プログラム
・博物館の備品、ワークシート一覧など活用資料
・子どものアンケート結果、教員からの改善シート・・評価に関わるもの

○「博学連携フォーラム」の開催

・2004年度から毎年1回開催
・公開授業 〔土曜日の授業参観も〕
・関係者＋保護者などによる意見交流・情報交換
（2012年度テーマ「博物館における多面的な学びの提案」）

12

森の自然と一体化　「どんぐりヘリコプター」（小1生活科）

生活体験館で人々の知恵や工夫を知る　「古い道具と昔のくらし」（小3社会科）

古い建物、朗読から情景を感じる　「たぬきの糸車」（小1国語）

森内の保存住居址から歴史の厚みを知る　「縄文のむらから古墳のくにへ」（小6社会科）

4. 検証・効果

◇評価の考え方の基本

①博物館の特性をどこまで生かし、実現しているか。

②めざす理念や存在意義にどれだけ近づいているか。

理念:「博物館のモノを活かした、感動と深まりのある学びができる場となり、子どもが将来にわたって幅広く知的好奇心を持ち続けられるようになる。」

→まずは特性や理念を館内部で共通認識されることが前提

◇目的

①PDCAの「C」として、おもに館内で確認、検証し、気付きやフィードバックとして次への参考とするもの

②客観的観点から、市民や行政・社会から必要な存在や装置として認知、評価されるもの

17

◇手法の留意点

・単発的でなく継続的に実施すること。

・行動や考え方の質的変化(成果・効用)を捉えること。

・測定する時期、タイミングを考えて実施する。(後述)

①学習の瞬間

②一定期間過ぎた時点(小学校卒業時)

③振り返ることができる(大人になった)時点

・利用者である「子ども」「教師」など調査対象を整理して考えること。

(教師・・「教師の振り返り」「市外学校教諭のインタビュー」などあり)

・数量的評価でなくても、反応を蓄積することに意味があると思うこと。

18

①学習の瞬間に、驚きや発見、気付きがあったかどうか。

◇学習中での子どもの「つぶやき」をていねいにひろう。

「うわっ」「すごっ」「あれっ」「きれい」・・・

＊まわりのスタッフは、聞き流してしまうのではなく、また答えを言ってしまうのではなく、関心がより深くなるよう見守る姿勢。「一緒になって考えてくれる存在であるべき。

◇終了時に行う「終わりの会」の子どもの率直な感想を聞く。

◇学習係スタッフは活動後に「活動振り返り記録」の「印象的だった子どものつぶやき・感想・学習の姿」欄に記入する。気軽に書きとめ、共有、蓄積。

↓

博物館での学習の特性「感動と深まりのある学び」（館の理念）がどのように実現できているかを確認。

19

②小学校卒業時に6年間の活動を振り返ってもらう。

6年間授業を受けた卒業見込み者にアンケート

（2005年度から毎年実施、詳細結果は『実践集』で報告）

（1）自由記述項目

（活動を通してわかったこと、気づいたこと、発見したこと、もっと知りたかったこと、どんな力がついたか）

○考察と分析の3つのキーワード

◇知識・技術　教科学習へ反映する気づき、「学力向上」

◇心・感性　自由な学び、博物館やかかわった人へ思い

◇行動の広がり　生活空間、家族、社会など多様な関心

・「茶の湯や墨絵を体験して、日本人は相手を思いやる心があるけど、他の国の文化はどんな事があるか、知りたくなった。」（小6社会[日本の文化を体験しよう]）

・「お母さんも洗濯や食事をやるのにすごく大変だということを学び自分もお母さんの手伝いをするようにしました。」（小4社会[古い道具と昔のくらし]）

博物館での授業が、次への活動の1つのきっかけとなっているという手ごたえ。

20

（2）選択設問項目（行動の広がりに関して）

2007年度→2012年度

○学習したことを家族に話したことがある。
〔56.1%〕→〔79.9%〕

○学習後、あらためて来館、質問、調べたことがある。
〔7.5%〕→〔13.0%〕

○野外学習の現地を再訪問したことがある。
〔7.9%〕→〔11.6%〕

○他の博物館や美術館へ行ったことがある。
〔2.8%〕→〔9.4%〕

○博物館での学習を「夏の自由研究」に活かしたことがある。
〔3.6%〕→〔5.9%〕

↓

・毎年継続的に調査。バラつきはあるが、数値は向上傾向。
・「子どもが将来にわたって幅広く知的好奇心を持ち続けられるようになる」という理念にどれだけ近づいているかを検証。

21

③かつての博物館の体験が今どのようになっているかを聞く。

〔成人式時・・・追跡調査〕（25年度予定）

- かつての博物館での学習の記憶、影響
- 博物館観、美術館観をさぐる

↓

◇博物館や文化を愛する「博物館育ち」の一市民となっているか。
◇シビックプライド（博物館が地域住民にとっての誇りで、愛着を持つ）としての存在になっているか。
◇コアな利用者だけでなく、地域社会全体にとって博物館という文化施設が公益性あるものとなっているか。

22

これで終わりです。ありがとうございました。